

アジア縫製新時代

3カ国 (ベトナム、ラオス、インドネシア) に拠点 アセアンの生産を拡充へ

日本の縫製企業で中国一産拠があることが取引

中国の人口増と昇、労働力不足によるコスト増で、中国に進出し大きな生産拠点を構築してきた日系縫製企業が東南アジア・南アジアへのシフトを進めている。円安の急伸でこうした拠点に対してオーダーが拡大する一方、東南アジア・南アジアでも人口の上昇が続き、リスク回避から生産拠点の分散化にも取り組んでいる。有力二社の動きを追った。



常川雅通社長

サンテイ

進出の先駆けだったサンテイグループ(岐阜県関市)が、アセアン(東南アジア諸国連合)での生産拠点を拡充している。従来のベトナムに加え、ラオスでは三工場としてメンスーツ工場が稼働し、インドネシアでもレディース工場を建設中だ。グループ会社のサンティクス社長で、今年四月からサンテイ社長に就任した常川雅通氏は「中国とアセアンの両方に生産拠点を拡充することが取引



7月から稼働を開始したサンティクス・ラオ

先からも評価され受注は好調」と語る。同グループは湖北省黄石市にある合弁工場「美

バングラが月産10万着 レディス重衣料で優位性

小島衣料(岐阜市)が二〇一〇年十一月からバングラデシュの首都ダッカで立ち上げた合弁工場「ゴジマ・リリック・カメックス」(K&L)がこの十一月には月産十萬着体制に達成する見込み。「アジアで安心してレディース重衣料ができる工場が注目を集めている」と(石黒崇社長)ため、中国・バングラデシュの拠点維持しながら、新たな生産拠点を拡充も検討



石黒崇社長

小島衣料

第二工場を設け、現在は心にも中国に五工場約四千人を超す拠点をもち、メンスーツ、ジャケット、コート、レディースのスーツ、フーエアを生産している。一方、ベトナムでは一九九一年からホーチミン市にメンスーツの生産拠点を設け、今では三工場(五百六十人)、メンスーツを生産する。六千本、メンスーツを月産二万五千本を生産する。

百人体制で月産三万着を目標とする。常川社長は「六百五十万の人口で労働力確保には苦勞するが、教えた事はきっちり作業する気質があり、工程数の多いメンスーツのモノ作りの可能性は高い」と期待を込める。

インドネシアには昨年十二月に独立企業「PTサンエスガルミッド」を設立。レディースフーエア生産の工場を、最近すべての設備を搬入し、

トレーニングを開始した。早急に三百三十人の八ラインで月産八千八百着体制を作り、一六年には四ライン程度増やし、月産二万二千着体制に拡充する計画だ。

今後、中国はハイグレードや付加価値商品に特化したり、現地素材・生産で信頼感のある商品開発に注力。一五年のアセアン経済統合を視野に、「中国は対日向け、アセアン拠点は対日と第三国向けを狙う時代になる」と(常川社長)という。

同グループは全体の貿易業務を扱うサンテイを三階フロアに作り、ビル全体がK&Lの工場になったことでラインを増設、これまでの一月八万着から第二ステージの目標に据けていたフル生産で十萬着体制に到達するメドが付いた。

一方、中国では湖北省黄石市の合弁工場「湖北美島服装有限公司」、吉林省琿春市の独立工場「小島衣料(琿春)服装有限公司」が主力。美島は規模の拡大を追求し、琿春は生産量を拡大する考えだ。石黒社長は「バングラがあっても、追加



東京市場でも製品ビジネスを強化

一方、東京を中心とした百貨店向けアパレルを主力とする事業部は、自社ショールームを使って製品提案を行う初の展示会を七月に開いた。今回は「消費増税による大開散期」への対応が第一だったが、製品ビジネスはすでにセットアップスーツをメインとする事業部が軌道に乗せている。このため東京でも今後の開散期対策の一環として強化していく方針だ。